

「新・動きの解剖学」初版 正誤表

三学期範囲(191p-298p)

第6章 股関節と膝関節				
ページ数		誤	正	備考
192p	[側面]の図	前上腸骨棘	上前腸骨棘	注1
193p	図の中程より下	膝窩	腓骨頭	それぞれが入れ替わる
		腓骨頭	膝窩	
201p	下の図の解説半ば	この関節窩底部（寛骨臼切痕）は、	この関節窩底部（寛骨臼窩）は、	
	下の図右下	寛骨臼切痕	寛骨臼窩	
211p	見出し	膝蓋骨は3つの骨で形成	膝関節は3つの骨で形成	
	下の解説文	これを大腿膝蓋関節という	これを膝蓋大腿関節という	
227p	右の文字列	坐骨	寛骨	
249p	上の小さい図解説文	大殿筋の停止部：	大殿筋の起始部：	

注1 多数のページに渡って、上前腸骨棘を「前上腸骨棘」と記述してあるので注意！

第7章 足関節と足				
ページ数		教科書	他の用語	備考
270p	上の図	回外	内がえし	注2
		回内	外がえし	
271p	下の図左	内反	回外	注3
		外反	回内	

注2 足部の運動は、多関節の複合運動からなるので、その運動方向を表す用語は国際的にも統一されておらず、とくに回内・回外、内がえし・外がえし、内反・外反などの言葉が違った意味で用いられている状況です。それでも、前額面での動きを教科書のように、回内・回外と表している文献の方が、外がえし・内がえし派よりも大幅に少ないとのこと（日本足の外科学会）でした。

教科書の「回内、回外」と、他の用語での内がえし・外がえしでは「内、外」の意味が違います。

注3 他の用語での回外とは、底屈+内旋（内転）+内がえし
他の用語での回内とは、背屈+外旋（外転）+外がえし

参考資料「日本足の外科学会」による「足関節・足部・趾の運動に関する用語」

http://www.jssf.jp/pdf/term_proposal.pdf